

第Ⅳ章 整備概要

第1節 尼塚古墳

整備期間 尼塚古墳の整備は、平成18(2006)年3月に実施設計を策定し、工事は平成19(2007)年1月から翌年3月にかけて実施した。

樹木の伐採 尼塚古墳は、整備前には205本の中高木とその他の幼木・低木類に覆われうっそうとした場所であった。見通しや風通しが非常に悪く、ゴミの不法投棄などもされており、墳丘の形状はまったくわからない状態であった。整備では、敷地内に生育する樹木のうち、近隣住宅への日照を遮るような樹高の高い樹木、住宅地や道路に落葉などの問題を起こす樹木、樹高に比べ幹が細く倒木の危険が伴う樹木、樹勢が弱く生長が見込めない樹木、墳丘の形状が分かりにくくなる樹木などを中心に伐採を行った。最終的に中高木145本の伐採と幼木・低木類を含む下草刈りを行った(第145図)。

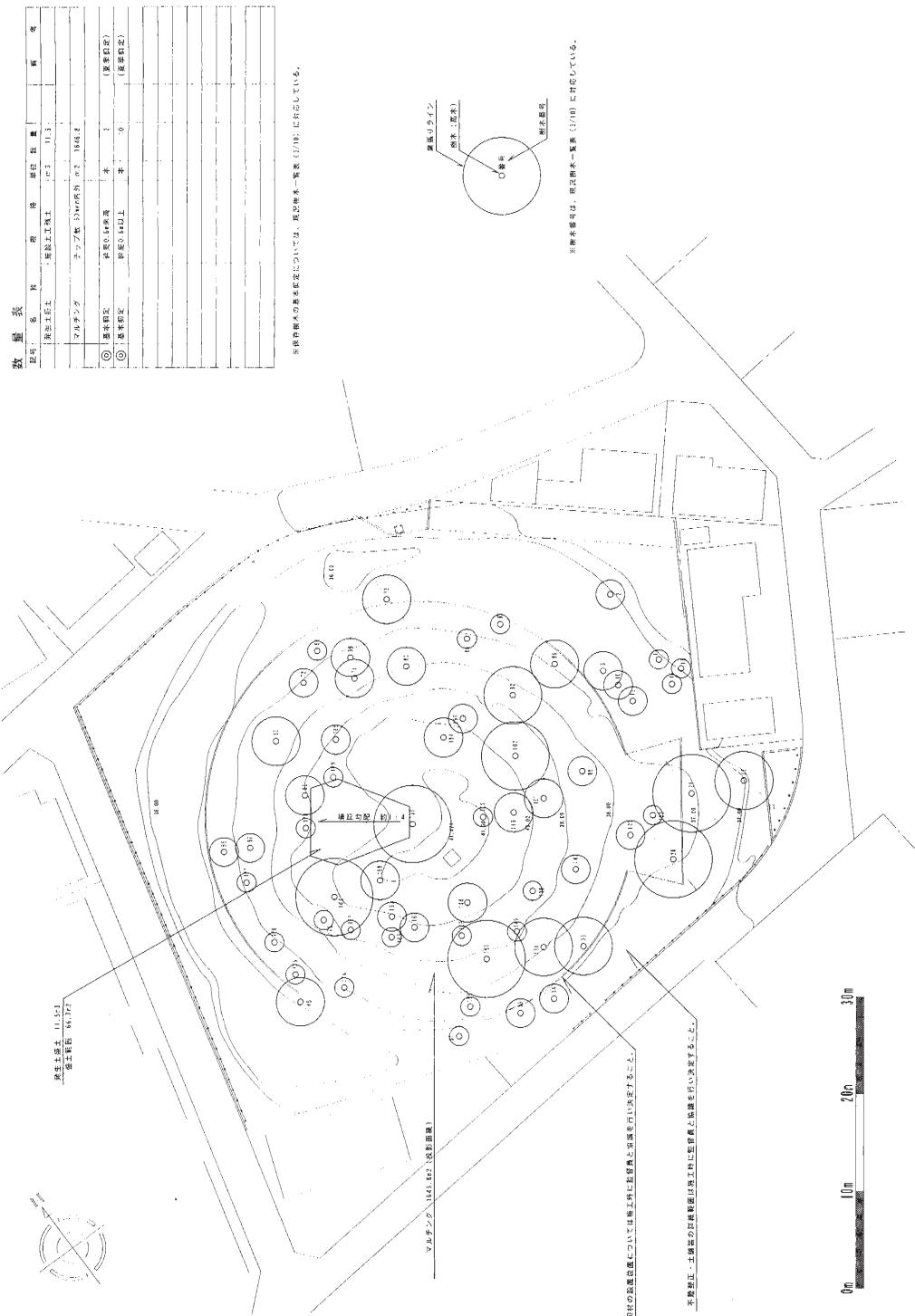
盗掘坑への盛土 墳頂北西側に盗掘坑と考えられる不自然な窪みがあるため、周辺の勾配に合わせて盛土により墳丘形状を整えた。盛土の範囲は約67m³、総土量約12m³であった(第145図)。

墳丘への木チップ敷設 下草の繁茂によって墳丘形状が不鮮明になることを防止するため、また、エコロジーや循環型社会の構築、経済性の観点から、伐採を行った樹木をチップ化し墳丘全体に敷設した。敷設の範囲は、発掘調査によって得られた墳丘裾部までの約1,647m³で、3cm内外の厚みで行った(第145・147・151図)。

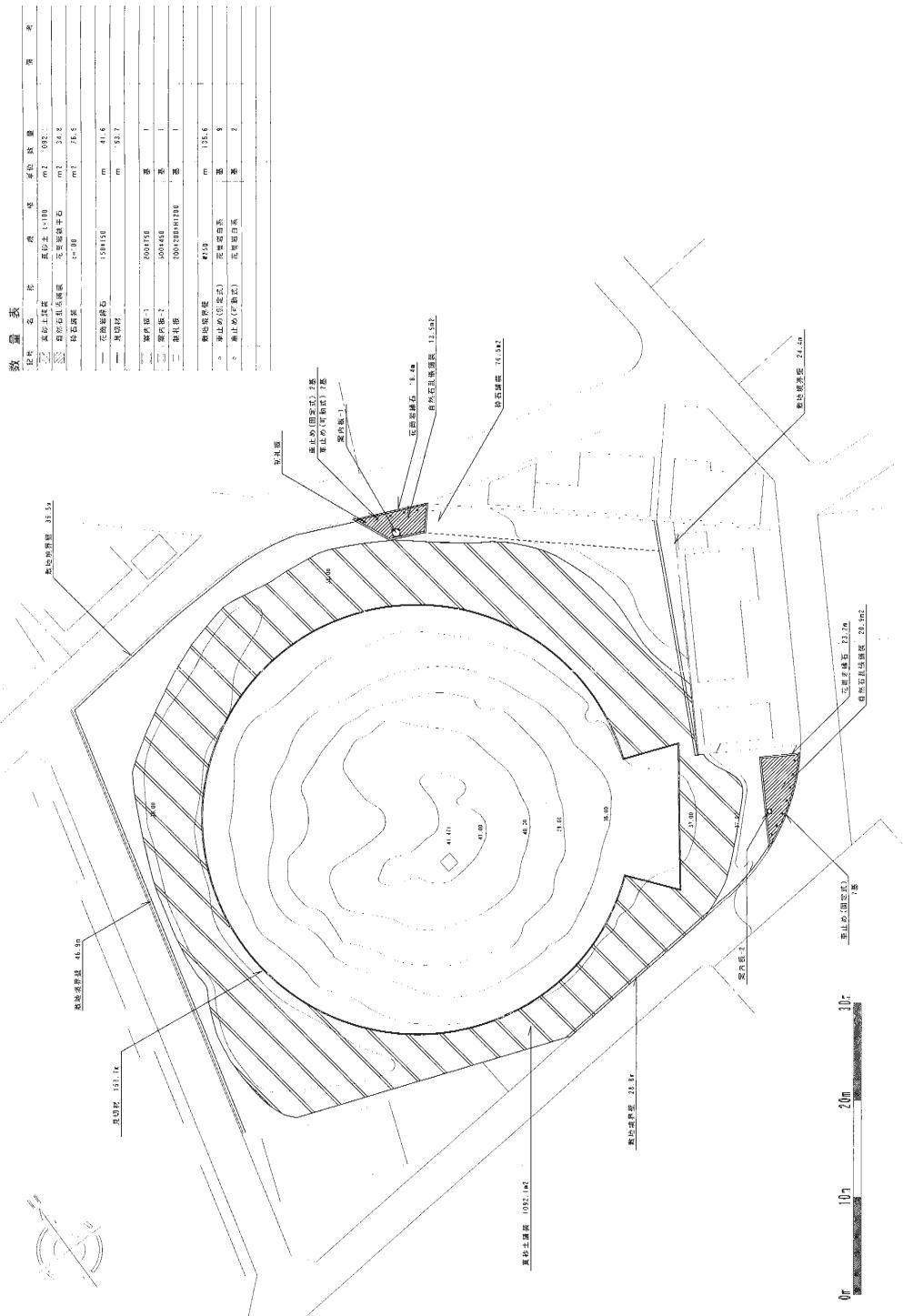
周濠内の真砂土舗装 周濠の範囲を明示するため、周濠内を真砂土舗装した。整備前の周濠部は凹凸があったため、碎石を厚さ10cm程度敷設し、その上に10cm厚の真砂土舗装を施工した。真砂土は不純物を含まない均一なものを使用し、表層には安定剤として塩化マグネシウムを混入した。真砂土舗装の範囲は約1,092m³である(第146・147図)。

エントランス整備 北東側と南東側にエントランスを設置した。エントランスの床面は平石による乱張舗装とし、車両の進入を防ぐため車止めを設置した。人塚古墳からのルート上に位置する北東側エントランスには、西条古墳群全体の配置などを明示した説明板と、史跡の指定年月日等を陰刻した標識(石柱)を設置した。説明板の土台や石柱、床面や車止めに使用した素材は、エントランスの統一感を演出するためすべて花崗岩製とした。南東側のエントランスは、墳丘突出部(造り出し)の前面に位置しているため、造り出しを解説した説明板を設置した。また、北東側の周濠内には、尼塚古墳の基礎情報や発掘成果を解説した説明板を設置した(第146~148・152・153図)。

敷地境界の明示 史跡の境界を明示するため、敷地境に境界壁を設置した。車両の進入を防止しつつ、見学者の視界を遮らないよう配慮し、地表からの高さ20cmのコンクリート製境界壁を設置した(第146・148・154図)。

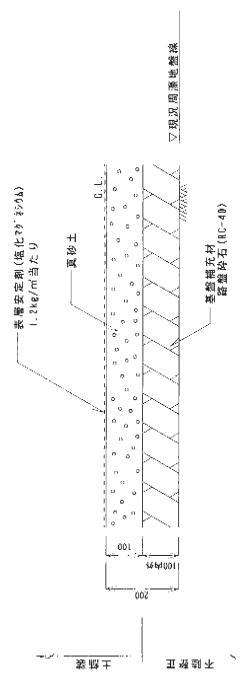


第145図 尼塚古墳造成平面図



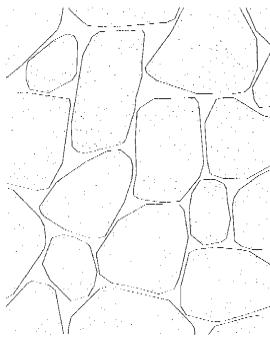
第146図 尼塚古墳舗装・施設平面図

裝舖土砂真

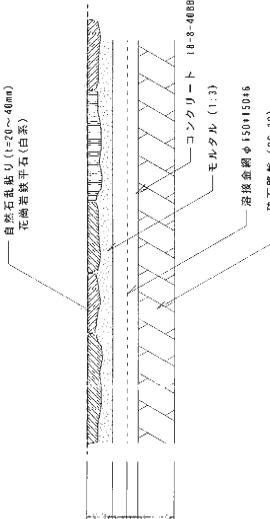


仕様
・草土は、不純物を含まない均一なものを使用すること。
・梅木材(BC-01)の底みは脚地盤の凹みに合わせて変化させ、十種類の底工に配慮すること。

裝舖張亂石自然

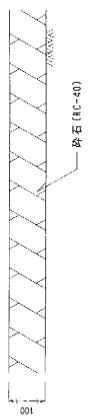


平面圖



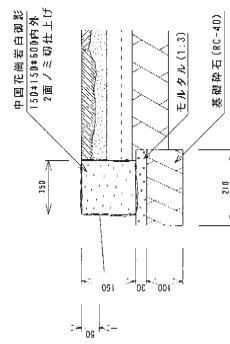
断面图

珠行鋪



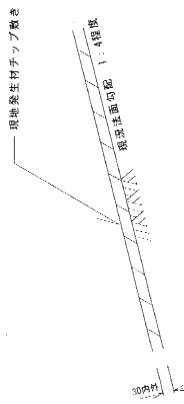
断面詳細図

花崗岩縫石



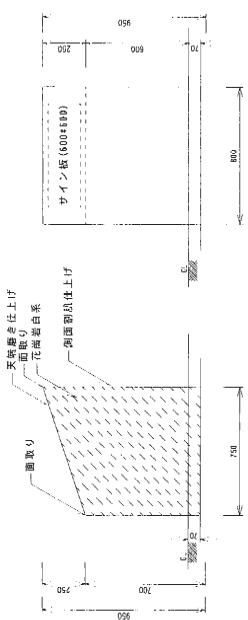
卷之三

マラチング



新西蘭細圖

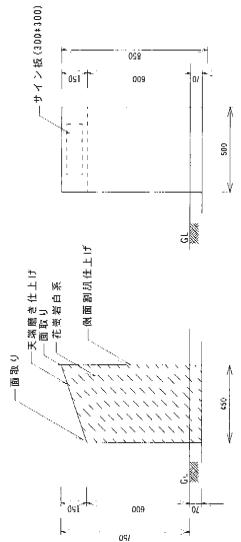
案内板-1



正面向

札板

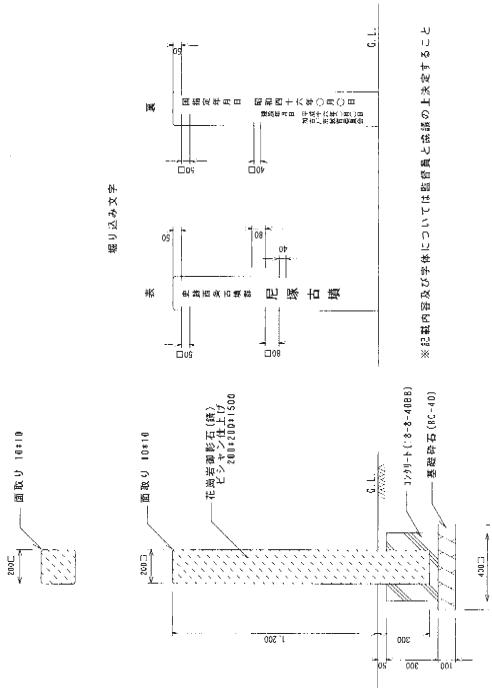
※ サインは、ニッコーハードコートサイン同等品以上とする。
藤村は、アルミ板としアンカーブレート4箇所接着加工する。



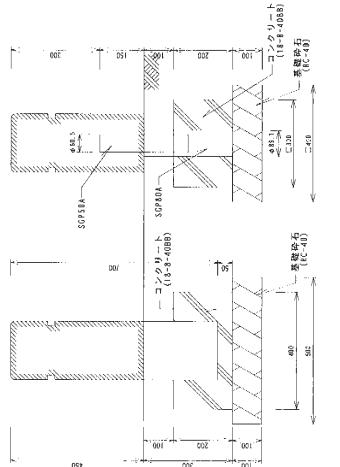
側面図

車止め工

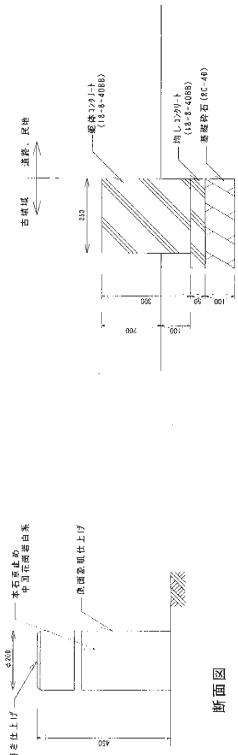
※ サインは、ニッコーハードコートサイン同等品以上とする。
藤村は、アルミ板としアンカーブレート4箇所接着加工する。



尼擗古墳整備詳細圖2
第148圖 斷面圖



断面图



四百



第149図 尼塚古墳全景（整備前）



第150図 尼塚古墳全景（整備後）



第151図 墳丘表面の木チップ



第152図 南東エントランス



第153図 説明板



第154図 敷地境界の明示

第2節 行者塚古墳

整備期間 行者塚古墳の整備は、平成20（2008）年3月に実施設計を策定し、工事は同年11月から翌年3月までと、平成21（2009）年6月から翌年3月までの2回実施した。

樹木の伐採 行者塚古墳は、整備前には825本の中高木とその他の幼木・低木類に覆われていた。整備では、古墳の形状を見やすくするため426本の樹木を伐採し、幼木・低木類を含む下草刈りを実施した。伐採の対象となった樹木は、被圧を受け将来的に生育が見込めないもの、密生しており間伐しないと生育が困難であるもの、倒木の危険があるもの、立ち枯れや病害を受けているもの、整備に影響のあるもの、管理車両の通行に支障をきたすものなどである。作業は平成20年度に実施した。

盛土整備 敷地内の周濠部やその外側には、後世の畑作などにより各所に窪地などが存在した。そのため、極端な高低差がある場所については現況地形に合わせて盛土を行った。また、復元展示をする西造り出しについては、発掘調査で確認された造り出しの形状に合わせて現況から60cm程度盛土し、復元の土台とした。北西造り出しと北東造り出しについては、造り出しの存在を強調するため、現況より10cm程度盛土し形状を整えた。東造り出しについては、比較的の形状が残っているため現状維持とした。南東側エントランスは、園路となる周濠部との高低差が1m程度あるため、車椅子や管理車両が進入できるようスロープ状に盛土を行いエントランス整備の土台とした。他に、東側くびれ部は平成7（1995）年の発掘調査範囲が窪地となっていたため、平均50cmほど盛土し旧状に復した。調査範囲の横に仮置きされていた調査時の残土はネザサに覆われていたため撤去した。これらの作業は平成20年度に実施した（第155図）。

西造り出し復元整備 発掘調査によって判明した形状に合わせて盛土を行った後、調査で判明した造り出しでの祭祀の様子を復元した。造り出しの斜面は、調査結果と同様に流紋岩質凝灰岩（竜山石）を中心とした葺石を再現した。盛土上に透水性の混合土を厚さ7cmほど敷設し、径10cm内外の竜山石を埋め込んで固定した。混合土は、良質のふるい真砂土（砂）、セメント、炭酸カルシウムや珪石粉などを高濃度に溶解した液状の混和剤をミキサーにてかくはんしたものである。造り出しの平坦面上は、埴輪を設置する部分にコンクリート製の基礎土台を設置し、それ以外の範囲を土舗装した。土舗装では、盛土上に厚さ10cmの碎石路盤を敷設し、その上を厚さ7cmの混合土で固めた。混合土の仕様は葺石復元の際と同様である。また、平坦面上の外縁部には復元展示範囲への立ち入りを制限するためチェーン柵を設置した。コンクリート製の擬木柱をステンレスの鎖でつないだもので、造り出しの円筒埴輪列外側を囲むように設置した。葺石の復元と平坦面上の碎石敷設、チェーン柵設置までは平成20年度に実施し、混合土による舗装は平成21年度に実施した（第156・158・170・171図）。

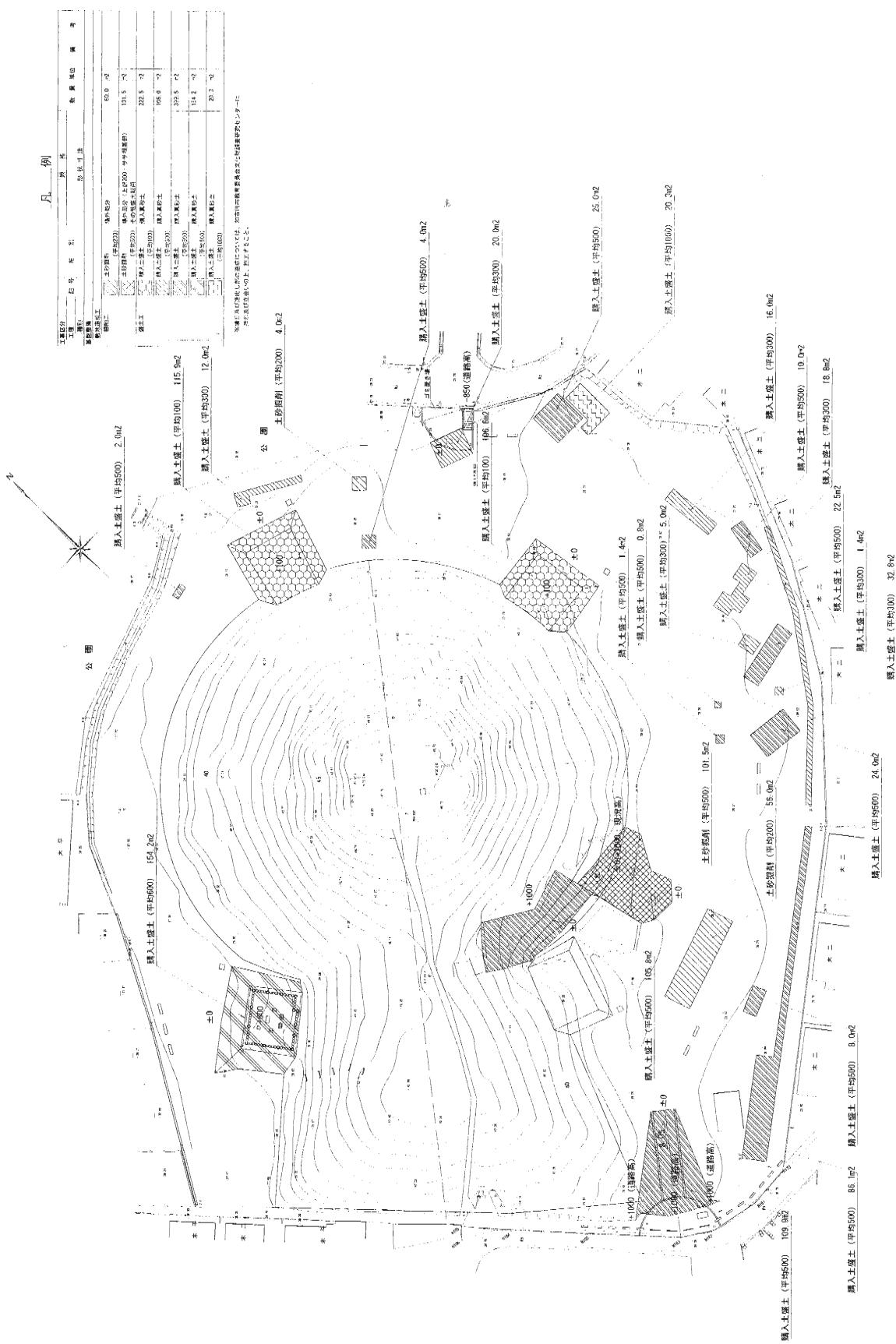
平坦面上に展示する埴輪や土製品のレプリカ製作については、「行者塚古墳レプリカ埴輪製造設置業務」として専門の業者へ委託し実施した。発掘調査で出土した円筒埴輪、壺形埴輪、家形埴輪、圓形埴輪、供物形土製品等について、合計128個の炻器素材のレプリカを焼成し設置した。埴輪の配置は、発掘調査成果を参考に、祭祀の様子がイメージできるよう配慮した。各埴輪の設置は、事前に設置されたコンクリート基礎に固定ボルトを取り付け、埴輪をモルタルで固めて固定した。供物形土製品については、木目調に仕上げた盤をボルトとモルタルで固定した後、あらかじめ疑似食物を接着しておいた器類をボルトにて盤に固定した。これらの作業は平成21年度に実施した（第157～162・166～185

図)。

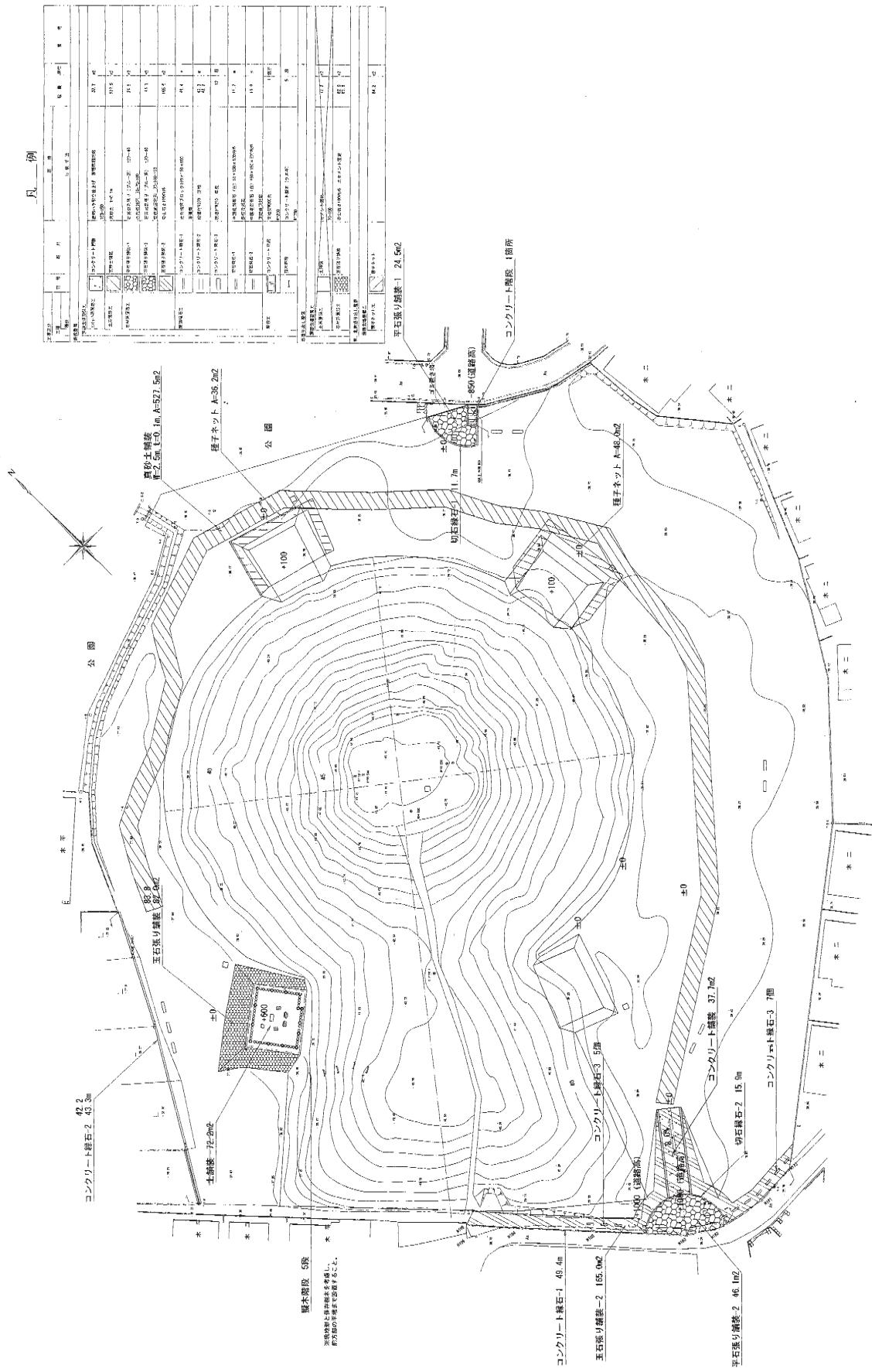
エントランス整備 南東側と北東側にエントランスを設置した。メインエントランスとなる南東側は、床面を平石による乱張舗装とし、エントランス周辺の敷地境界付近と園路へと続くスロープ部分は竜山石を用いた玉石張り舗装とした。入口部は車両の進入を防ぐため車止めを設置し、入口周辺の道路と接している部分には幅25cm、長さ1m、地表からの高さ20cmのコンクリート製縁石を配置した。入口の脇には、行者塚古墳の基礎情報を盛り込んだ説明板と史跡の指定年月日等を陰刻した標識(石柱)、敷地内での注意事項や禁止事項を明記した案内板を設置した。北東側のエントランスは、既設のブロック塀を撤去し、新たに階段を設置して入口とした。小範囲の平石による乱張り舗装を施し、南東エントランスと同様の説明板、標識、案内板を設置した。説明板は、エントランスのほか、各造り出しと墳頂部に設置し、それぞれの場所における発掘調査の成果を解説した。これらの作業は平成20年度に実施した(第156・186~191図)。

園路整備 敷地内には園路と墳丘上へ上の階段を設置した。園路は、南東エントランスから西造り出しにかけての周濠内に設定し、真砂土舗装とした。西造り出しの南側には、前方部へ上がるコンクリート製の擬木階段を設置し、後円部まで散策できるよう配慮した。園路の脇4箇所には、合計9基のコンクリート製擬木ベンチを設置し、様々な角度から古墳を観察できるようにした。これらの作業は平成20年度に実施した(第156・192~194図)。

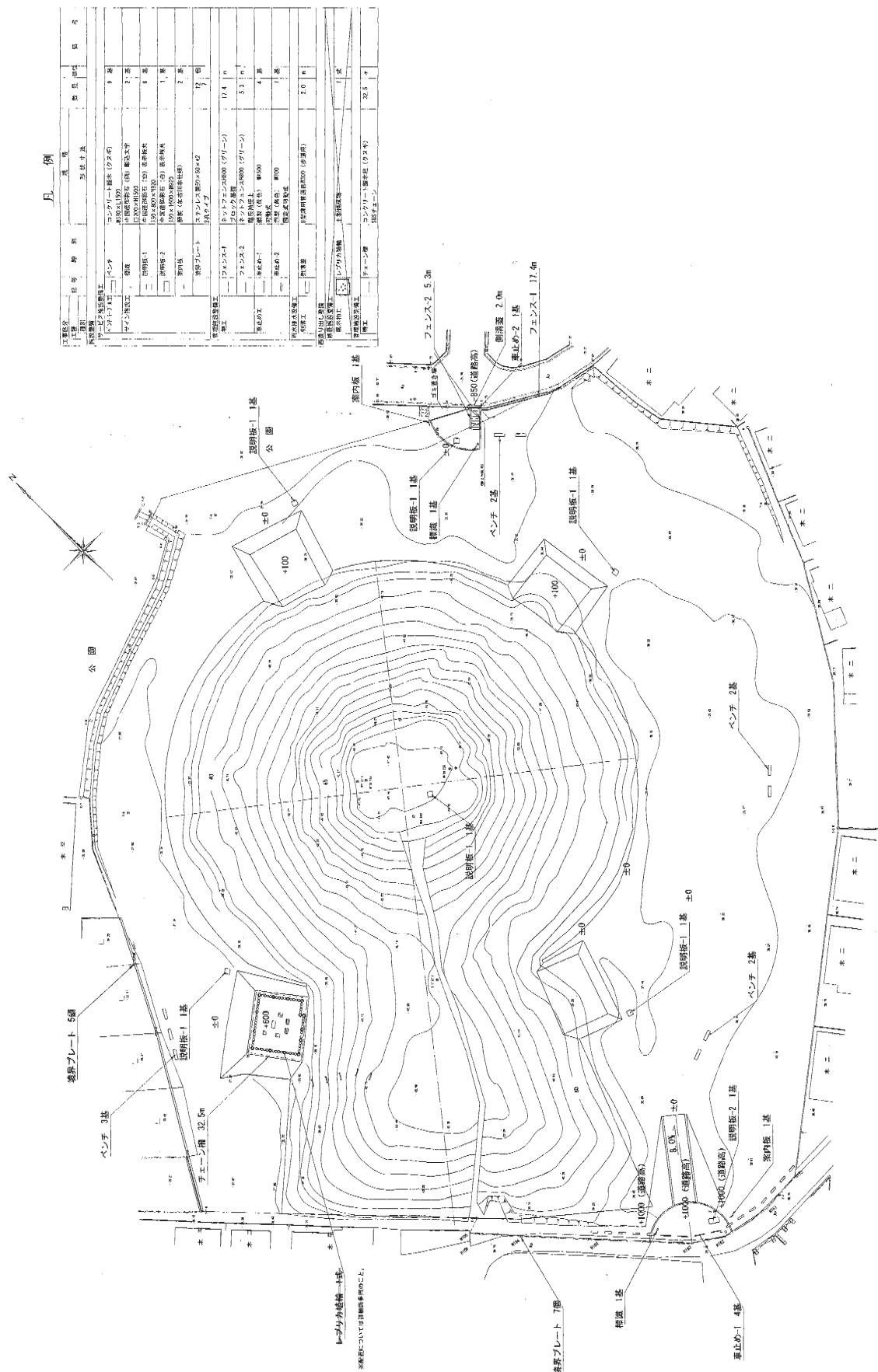
敷地境界の明示 史跡との境界が不明確になっていた南東エントランス周辺と敷地西側の民有地境に境界縁石を設置した。南東側エントランス周辺の境界縁石は、前面道路と段差を設けないよう、地先境界ブロックを埋め込んで明示した。西側民有地との境界では、コンクリート製の縁石を地表から20cmの高さに揃えて設置した。これらの作業は平成20年度に実施した(第157・194図)。



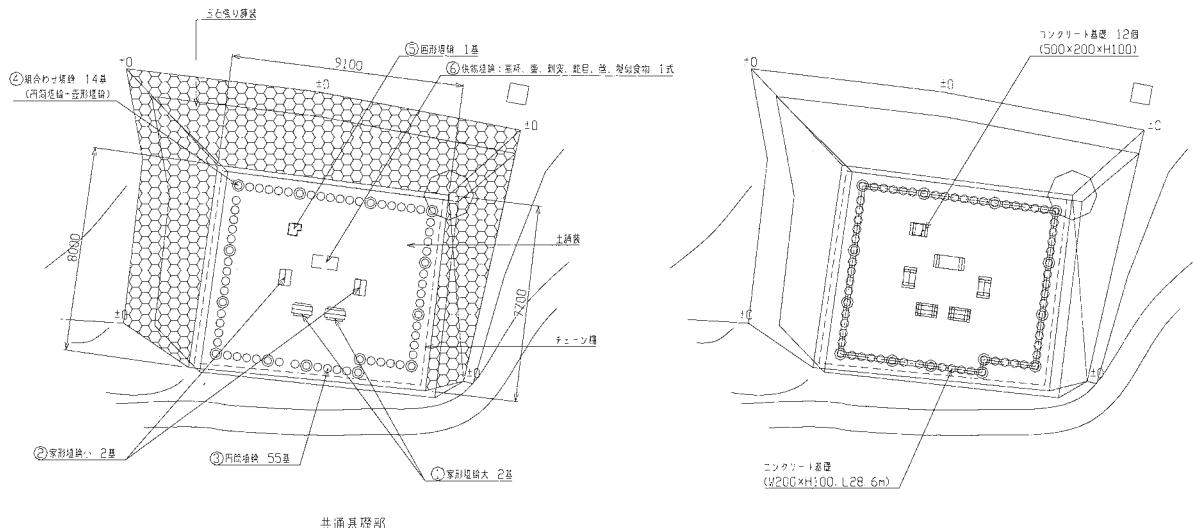
第155図 行者塚古墳造成平面図



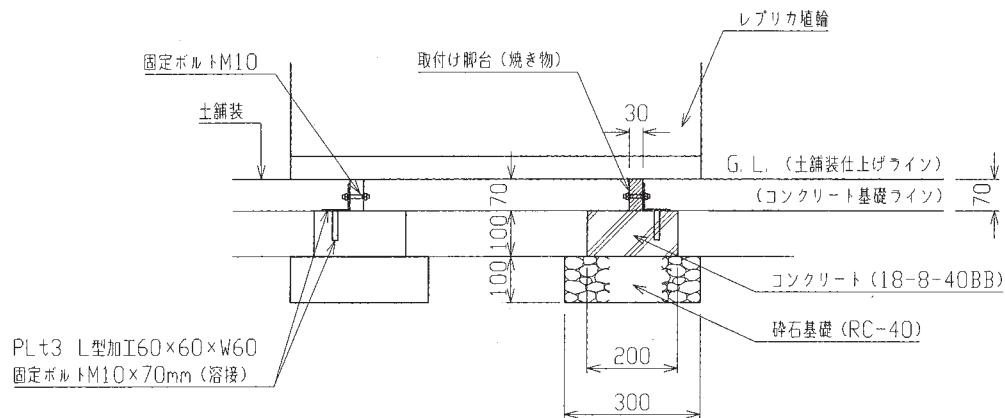
第156図 行者塚古墳園路等平面図



第157図 行者塚古墳施設平面図

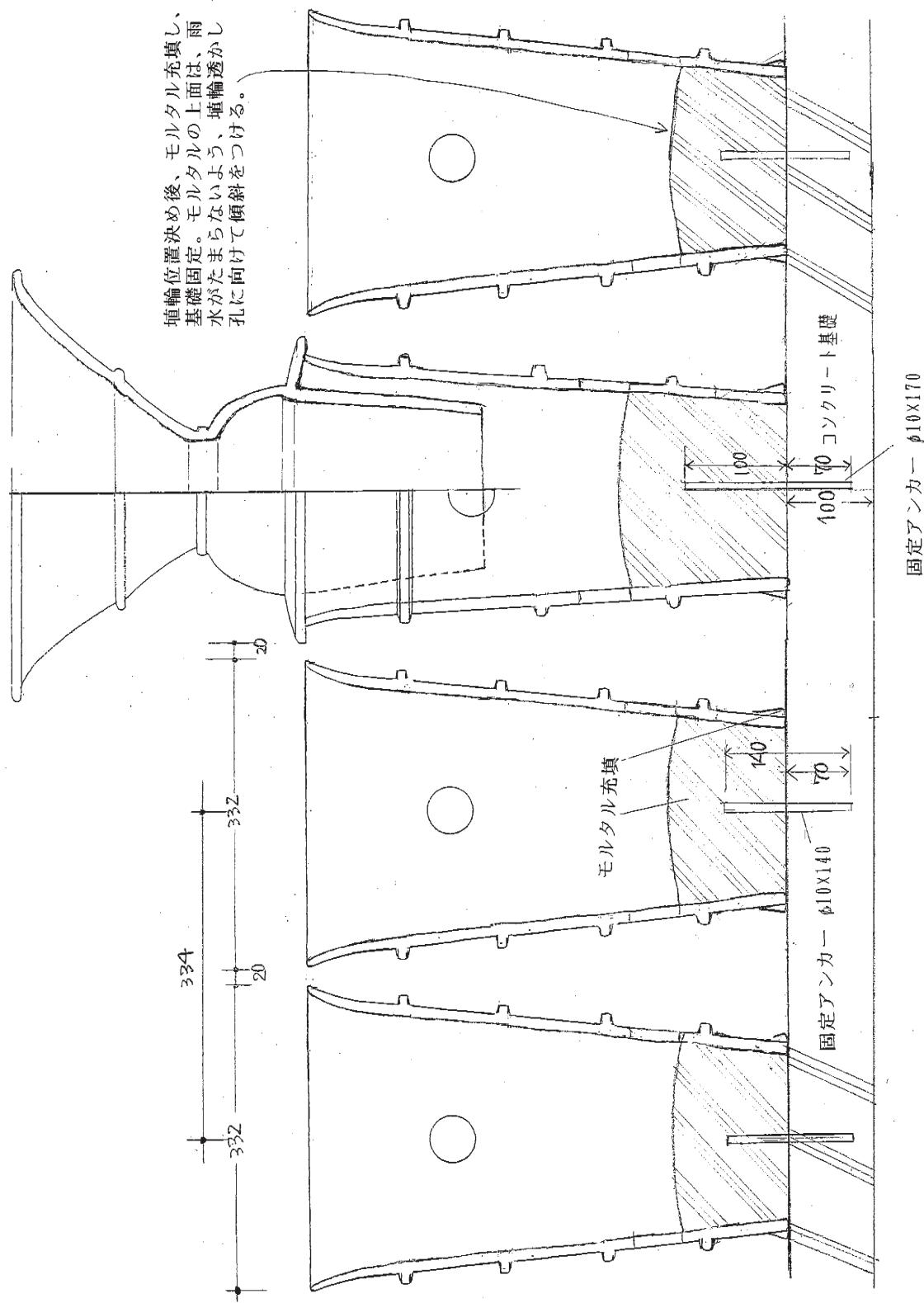


共通基礎部

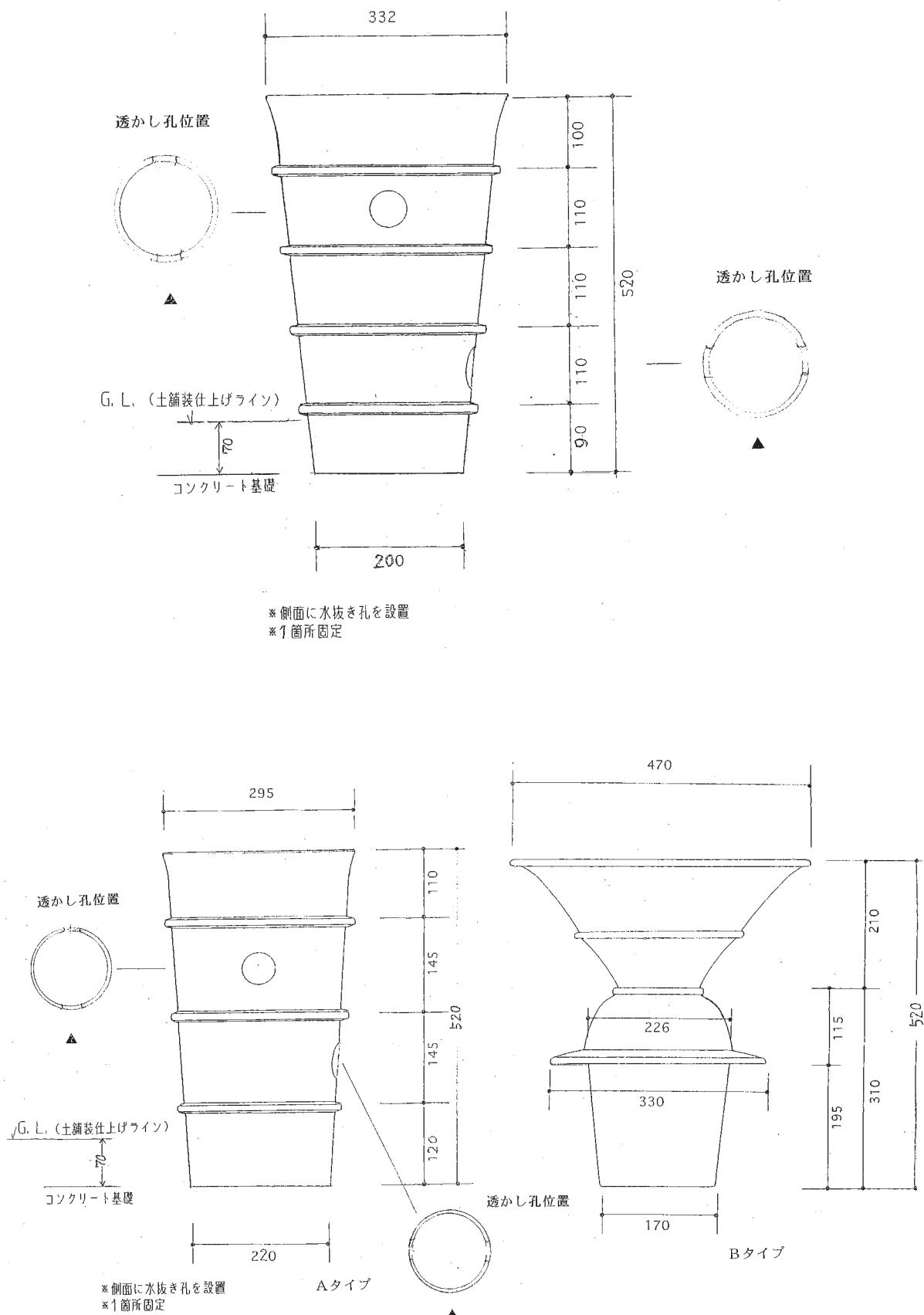


断面詳細図

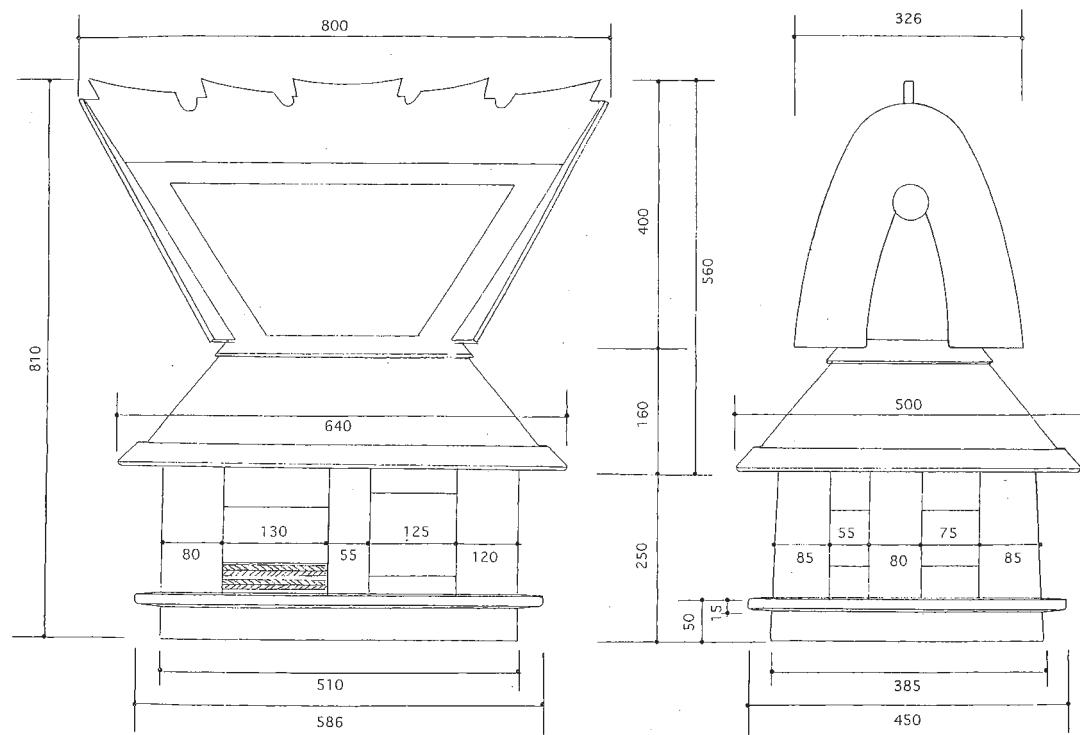
第158図 西造り出し詳細図



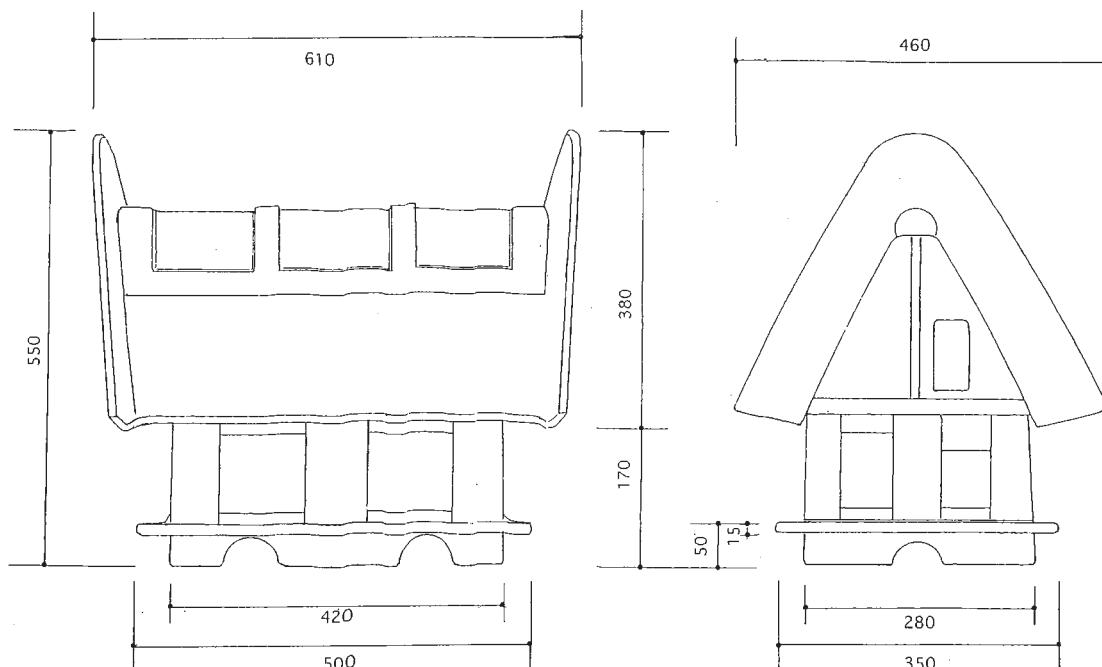
第159図 レプリカ埴輪設置図



第160図 円筒埴輪・壺形埴輪詳細図

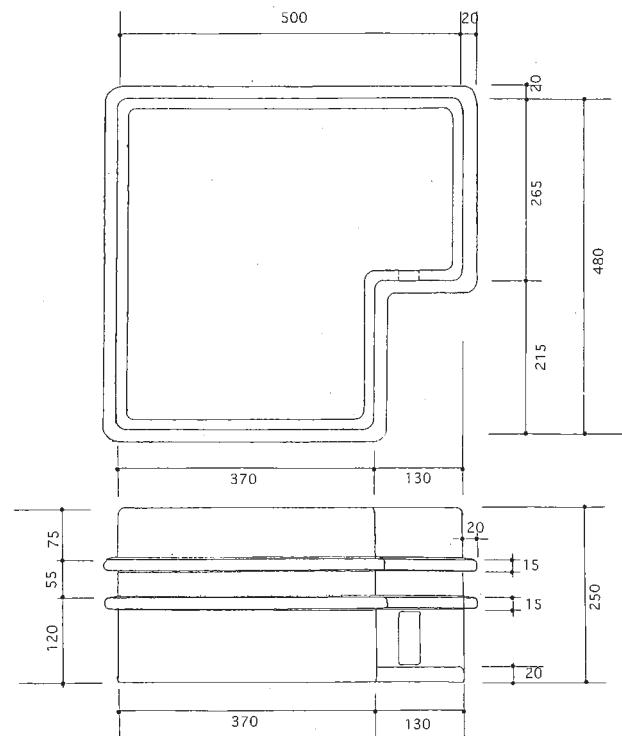


*側面に水抜き孔を設置
*4箇所固定

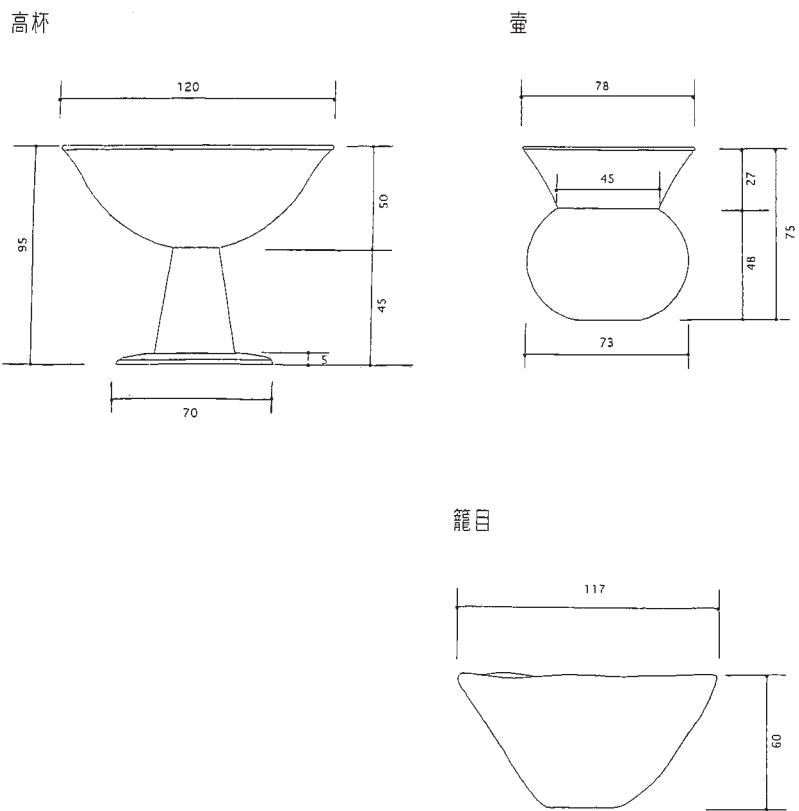


*側面に水抜き孔を設置
*4箇所固定

第161図 家形埴輪詳細図



*側面に水抜き孔を設置
*4箇所固定



第162図 圓形埴輪・供物形土製品詳細図



第163図 行者塚古墳全景
(前方部南側より)



第164図 行者塚古墳全景
(東側から後円部をのぞむ)



第165図 行者塚古墳全景
(西造り出しから後円部をのぞむ)



第166図 西造り出し整備後



第167図 西造り出し全景



第168図 西造り出し復元展示



第169図 供物形土製品設置状況



第170図 葦石復元状況



第171図 上面土台完成



第172図 上面土舗装状況



第173図 上面埴輪設置部分



第174図 円筒埴輪製作状況



第175図 家形埴輪製作状況



第176図 圓形埴輪製作状況



第177図 供物形土製品製作状況



第178図 レプリカ埴輪焼成



第179図 アンカーボルト設置



第180図 モルタル充填



第181図 レプリカ埴輪固定



第182図 家形埴輪設置



第183図 圏形埴輪設置



第184図 供物形土製品設置



第185図 土入れ作業



第186図 南東エントランス



第187図 南東エントランス標柱



第188図 南東エントランス説明板



第189図 北東エントランス



第190図 北東エントランス階段



第191図 墳頂部



第192図 園路



第193図 前方部への擬木階段



第194図 西造り出し前のベンチと敷地境界の明示

第3節 人塚古墳

整備期間 人塚古墳の整備は、平成24(2012)年11月に実施設計を策定し、工事は平成25(2013)年8月から11月、平成26(2014)年9月から翌年1月、平成27(2015)年8月から12月、平成28(2016)年8月から11月の合計4回実施した。

樹木の伐採 人塚古墳は、整備前には100m²あたりおよそ32本の樹木が生育しており、古墳の形状はまったく見ることができなかつた。整備では、古墳の形状を見やすくするため81本の樹木を伐採した。伐採の対象となった樹木は、倒木の危険があるもの、立ち枯れや病害を受けているもの、古墳の見通しを悪くしているものなどである。作業は平成27年度に実施した(第196・209図)。

墳丘への保護盛土 墳丘南西側に存在したとされる突出部(前方部)は、過去の土取り行為によつてすでに失われており、その部分は崖面となって風雨に晒されていた。墳丘の流出も懸念されることから、この場所へ保護のための盛土を行つた。盛土の勾配は、上部の墳丘勾配を考慮して1:2とした。また、盛土後の法面には安定を図るため種子の吹付を行つた。これらの作業は平成25年度に実施した(第195・197・210~212図)。

墳丘裾位置の表示 現況の墳丘裾付近や周濠内は、後世の耕作等によって地形が変化している場所があるため、発掘調査によって判明した墳丘裾の想定位置を表示石によって明示した。表示石は、高さ33cm、長さ55cmの花崗岩製とし、発掘調査でおおよその位置がとらえられた3箇所に設置した。作業は平成28年度に実施した(第204・213・214図)。

周濠範囲の明示 人塚古墳は、周濠の外側斜面が後世の改変により著しく変形していたため、発掘調査の成果に基づいて盛土することで外側斜面を再現し周濠範囲を明示した。明示した範囲は、突出部の取りつく南西側以外の範囲で、発掘調査の北西調査区から南東くびれ部調査区を結ぶ範囲である。盛土の勾配は、標準のり勾配である1:1.5とした。高さは、周辺の現況地盤に合わせて設定し、盛土上を歩いて周遊できるようにした。なお、敷地の北東側入口付近に設置した説明板には、周濠の範囲は調査結果に基づいているものの、盛土の高さは築造当時の復元ではないことを明記した。作業は平成25年度に実施した(第195・198~200・215~217図)。

瓦窯跡の表示 平成20年度の発掘調査において、周濠外側斜面を利用した瓦窯跡が検出された。整備では、この窯跡の検出位置と範囲を平面表示した。盛土により復元された周濠外側斜面に、発掘調査で検出された位置を投影し、検出時の外形を縁石にて囲い、内部には混合土を充填した。縁石は、幅10cm、高さ20cm、長さ30cmの花崗岩製で、周囲が草で覆われた際も隠れてしまわないよう地表から10cm盛り上げて設置した。なお、この縁石は園路として利用されている周濠上の平坦面では、転倒防止のため地表面と同じ高さに揃えて設置した。また、発掘調査の結果から、窯の上部は削平されていたことが判明していたため、園路上に延びている上端部については縁石を用いず、土中で縁切りの処理を施して削平された状況を再現した。縁石で囲われた内部に充填した混合土は、良質のふるい真砂土(砂)に石灰とマグネシウムを配合し突き固めたものである。さらに、赤色粉を配合することで窯跡の焼土をイメージできるよう工夫した。配合の割合は、複数の配合パターンで作製したサンプ

ルの中から最適なものを決定した。窓表示の脇には、発掘調査の様子と調査結果を解説した説明板を設置した。これらの作業は平成28年度に実施した(第196・204・218~222図)。

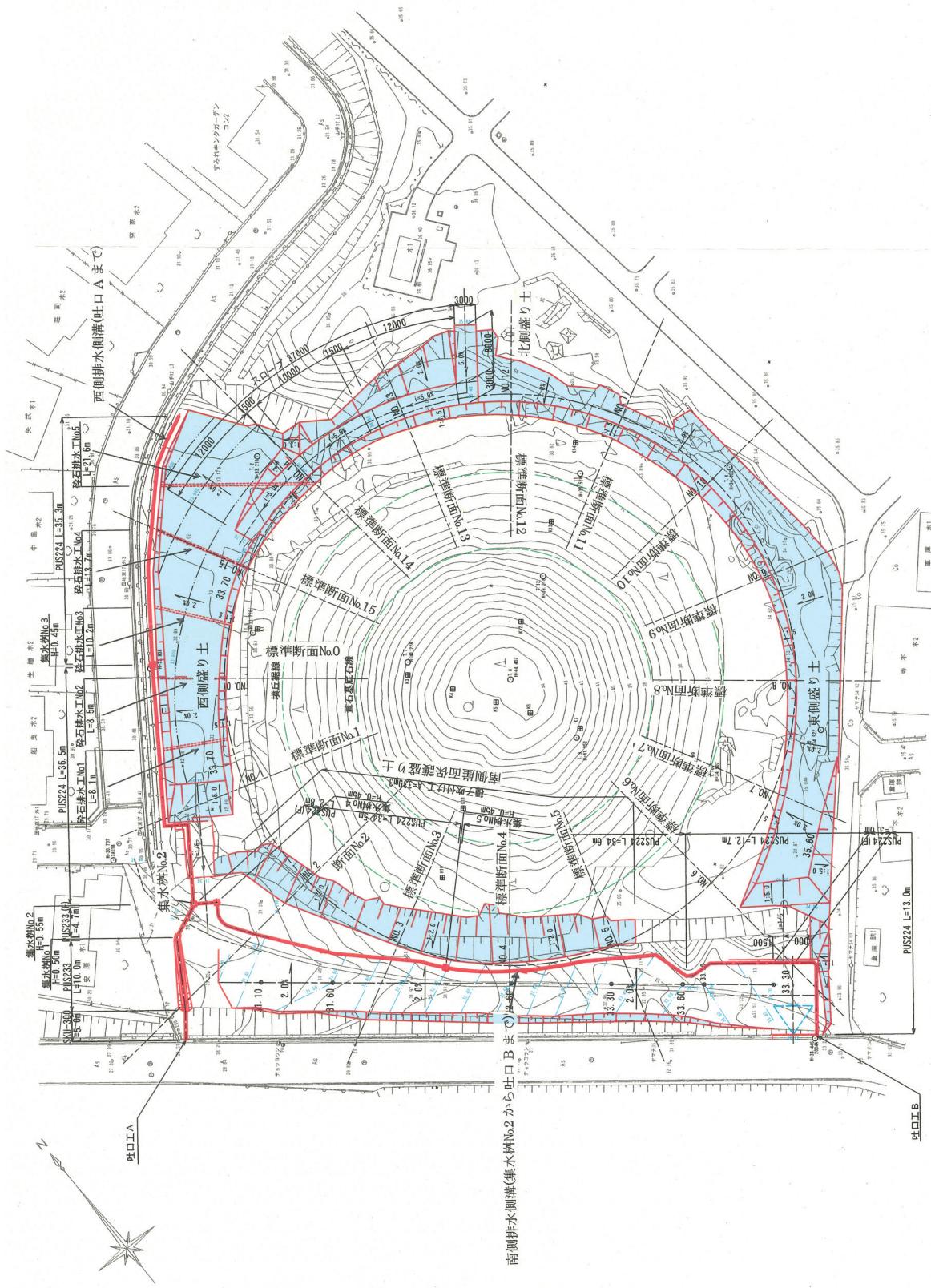
エントランス整備 南側と西側にエントランスを設置した。メインエントランスとなる南側は、行者塚古墳や尼塚古墳と同様に床面を平石による乱張舗装とし、入口部は車両の進入を防ぐため車止めを設置した。入口の脇には、西条古墳群全体についての概要説明や敷地内での注意事項、周辺の地図を盛り込んだ案内板と、史跡の指定年月日等を陰刻した標識(石柱)を設置し、エントランスの中央には人塚古墳の発掘調査成果を解説した説明板を設置した。また、墳丘の東側園路へと続く緩やかな階段を設置した。西側エントランスでは、南東側と同様に平石による舗装、車止めの設置、指定年月日等を刻んだ石柱設置を行い、墳丘西側園路へと昇る階段を設置した。これらの作業は平成26年度、27年度に段階的に実施した(第196・201~204・223~227図)。

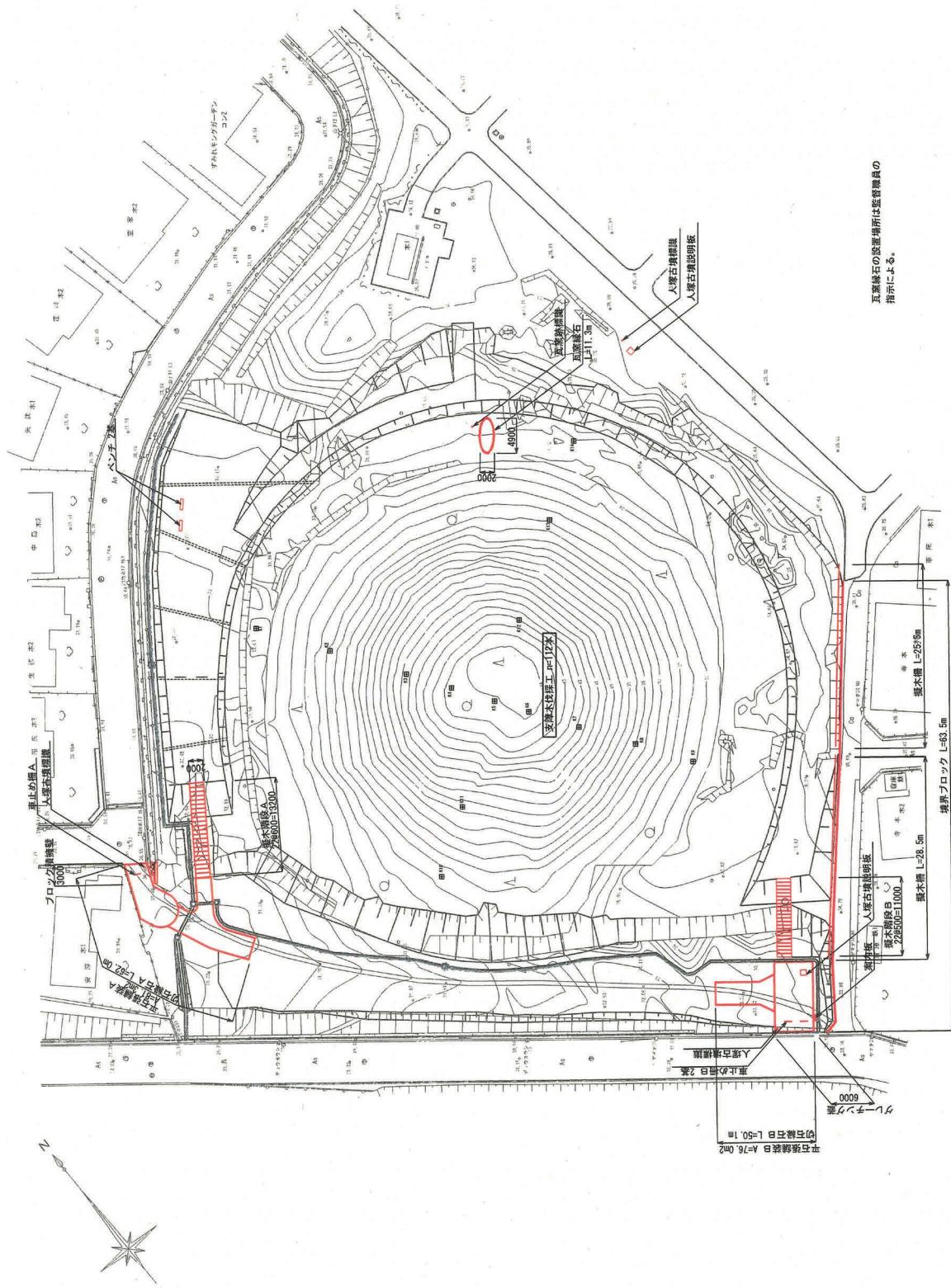
上記のエントランス以外に、北東に隣接する県指定史跡西条廃寺や北山公園からの出入口も存在する。この出入口については、現況のまま活用することとしたが、西条廃寺からの出入口付近には本整備事業の概要を記した説明板と指定年月日等を刻んだ石柱を設置し、西条廃寺へ見学に訪れた人々を誘導するよう配慮した。説明板を平成27年度に設置し、石柱を平成28年度に設置した(第196・204図)。

園路整備 先述したとおり、周濠の外側を盛土により復元し、その盛土上を園路とした。また、保護の盛土を施した大型突出部の南側は以前から歩行者の通路となっていたため、引き続き園路として活用することとし、園路脇には新たに排水施設を設置した。北側の園路上には、擬木コンクリート製のベンチを2基設置し、古墳を見ながら休憩できるようにした。排水施設の設置を平成25年度、ベンチの設置を平成28年度に実施した(第195・196・205~207・228・229図)。

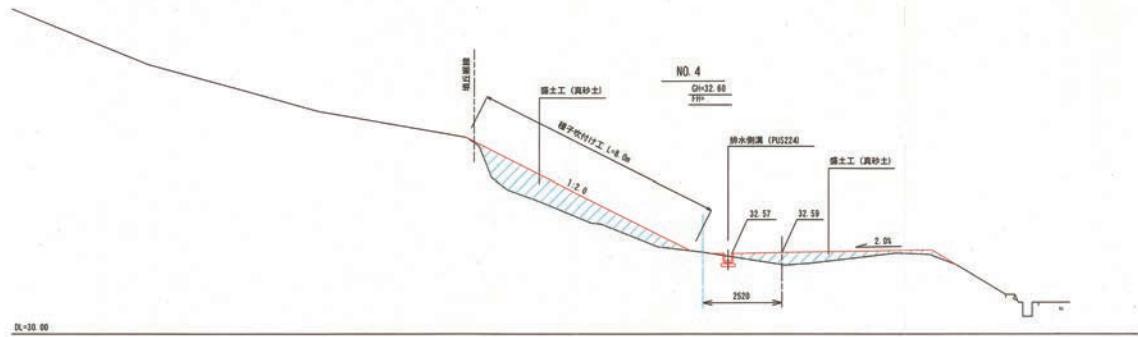
敷地境界の明示 史跡との境界が不明確になっていた南側開拓道路との境に境界ブロックを設置した。この開拓道路は、現在地元住民の生活道路として活用されていることから、車両の通行に配慮し道路部分と段差を設けないように地先境界ブロックを設置した。また、第三者の敷地内への車両の進入を防ぐ必要があったため、境界ラインから50cmほど内側にコンクリート製の擬木柵を設置した。擬木柵には1.3mほどの空間を1箇所設け、歩行者が通行できるよう配慮した。これらの作業は平成28年度に実施した(第196・207・230・231図)。

第195図 人塚古墳造成平面図

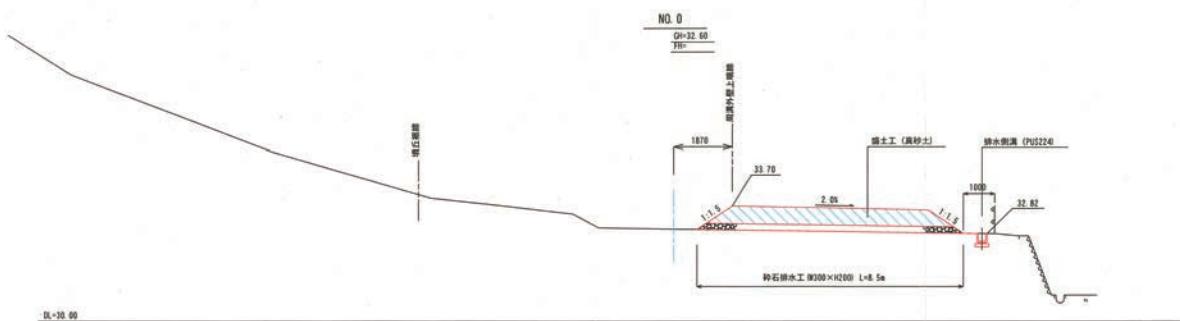




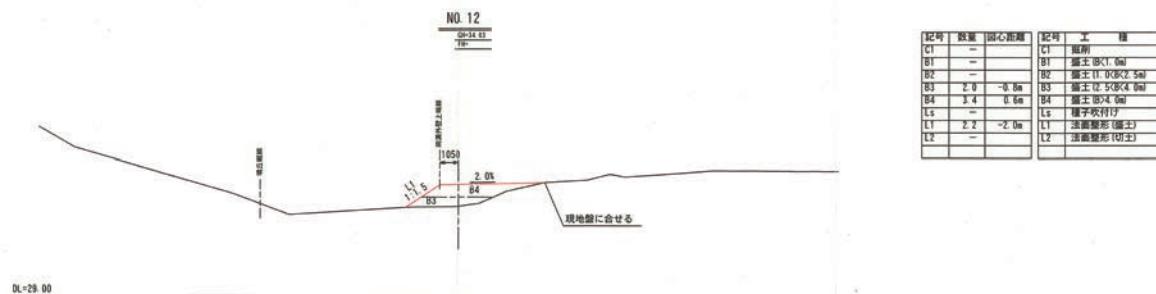
第196図 人塚古墳舗装・施設平面図



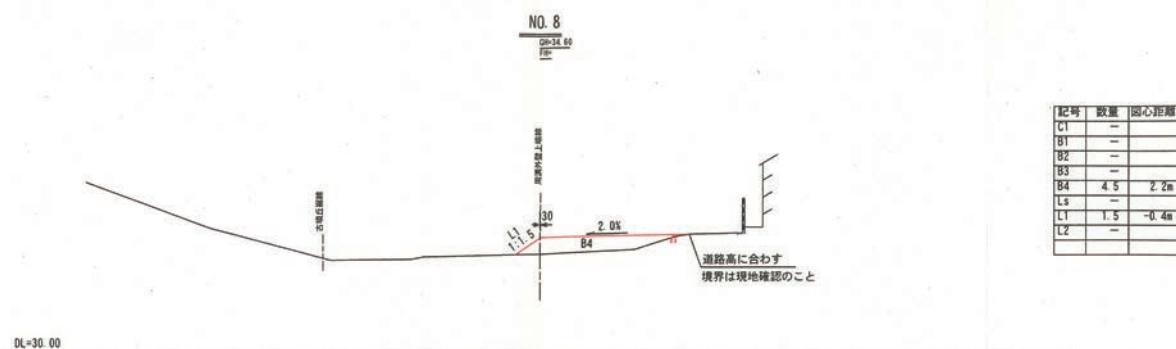
第197図 標準断面図 (No.4 ライン)



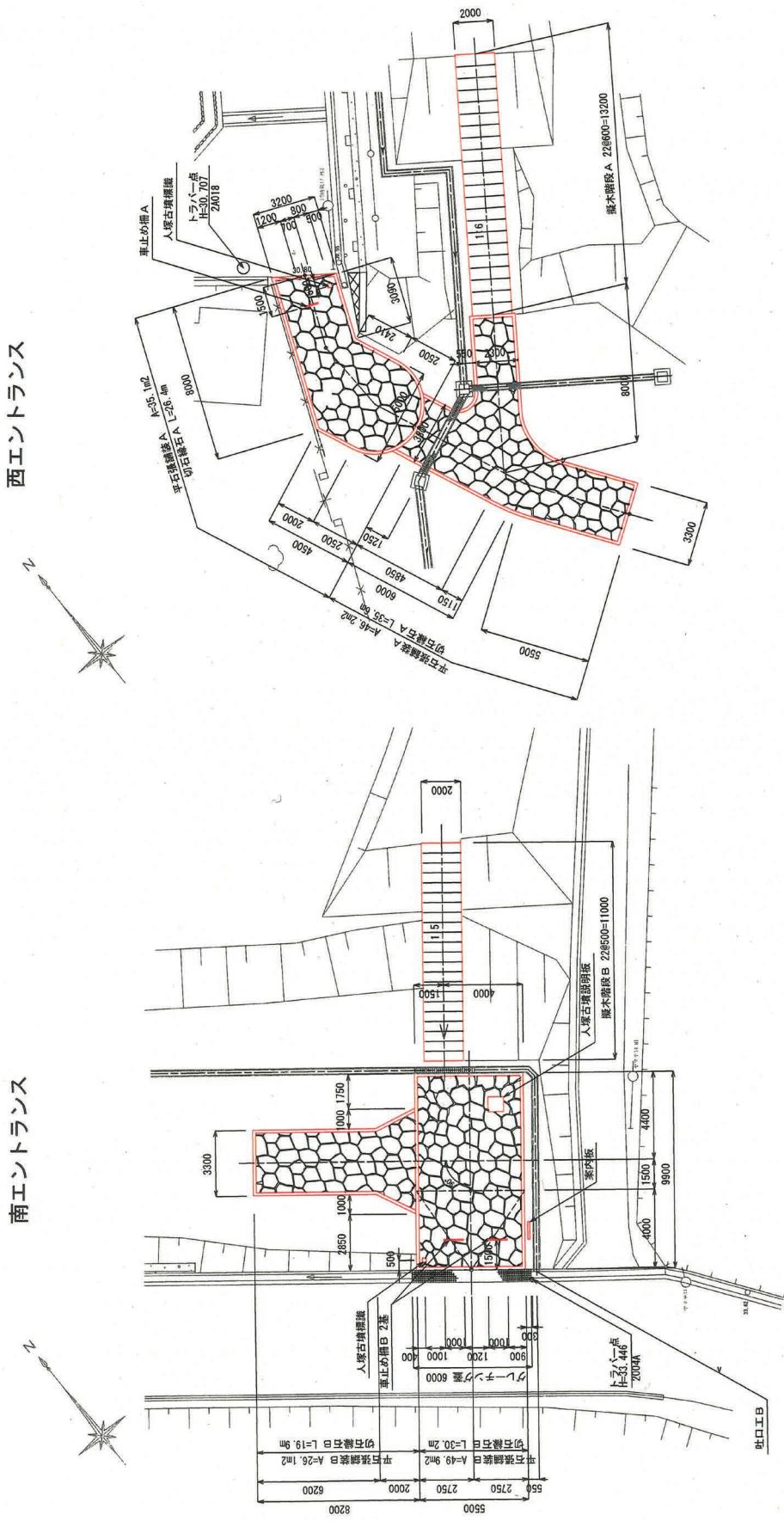
第198図 標準断面図 (No.0 ライン)



第199図 標準断面図 (No.12 ライン)

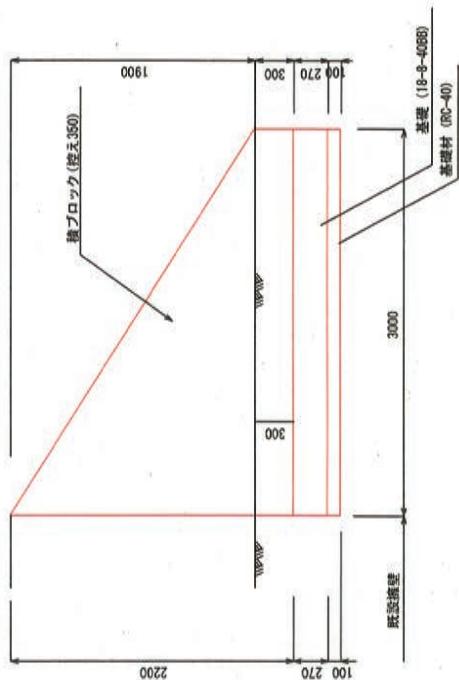


第200図 標準断面図 (No.8 ライン)

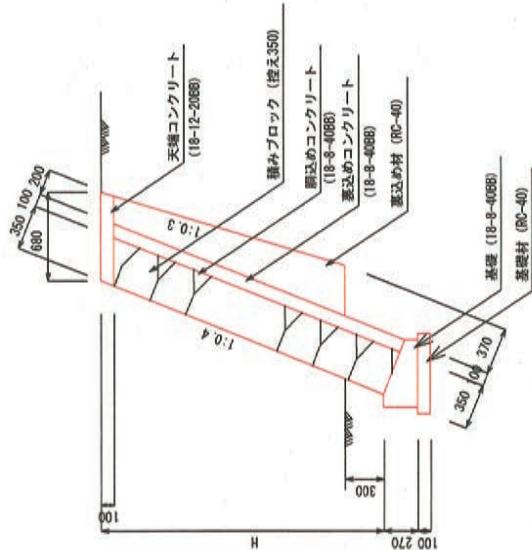
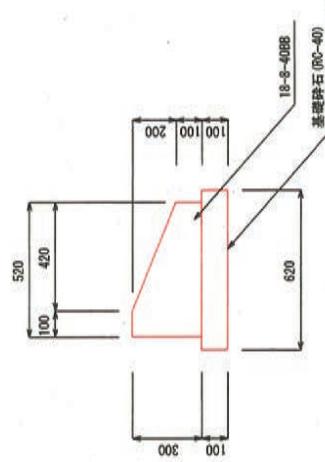
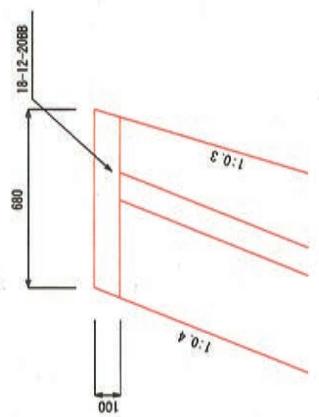


第201図 エントランス詳細図

展開図



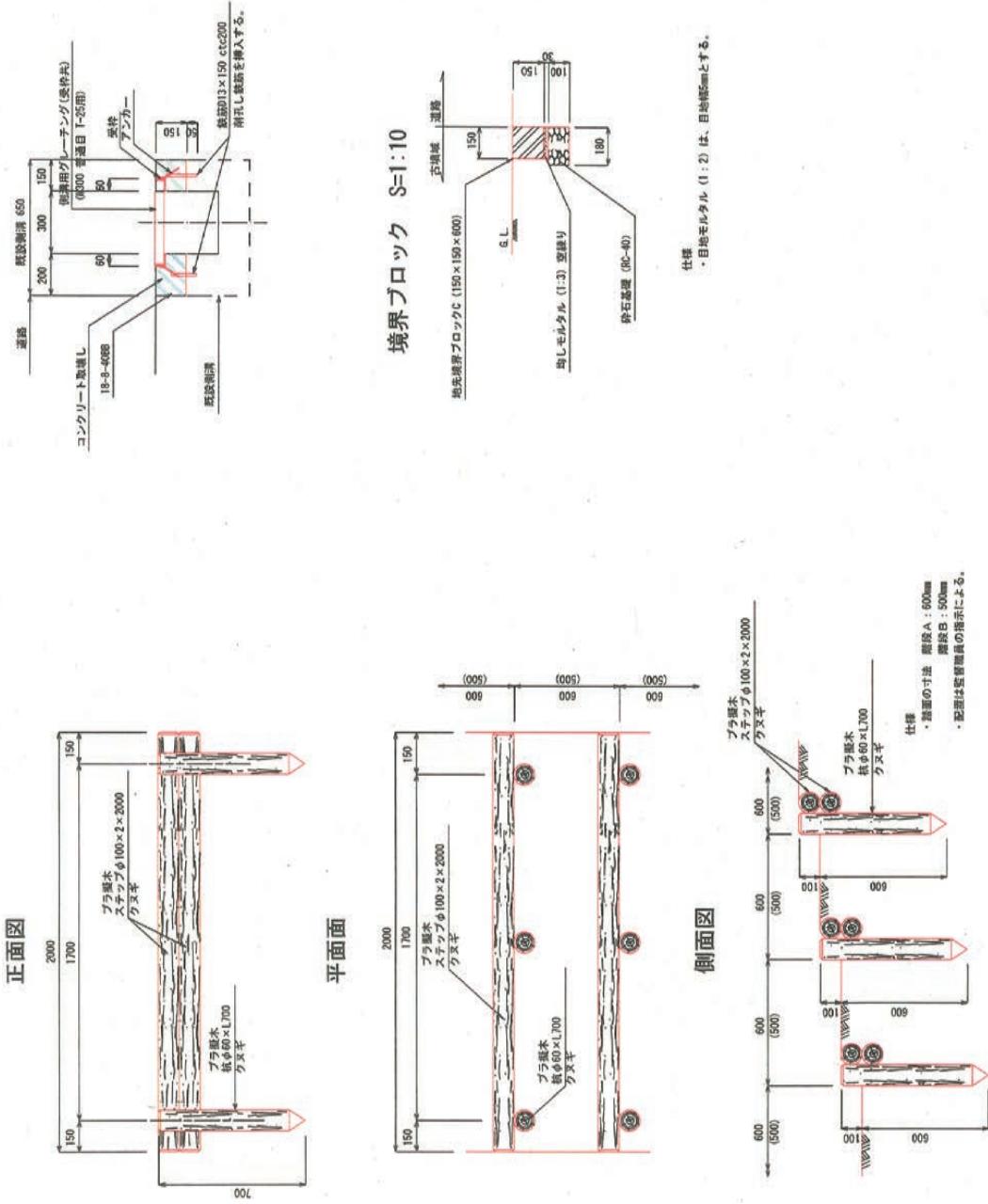
断面図

ブロック基礎
天端コンクリート

第202図 摻壁詳細図

擬木階段 A - B

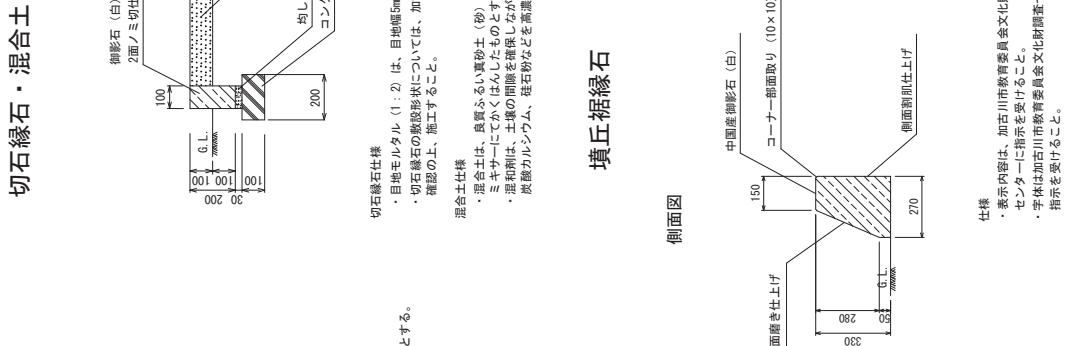
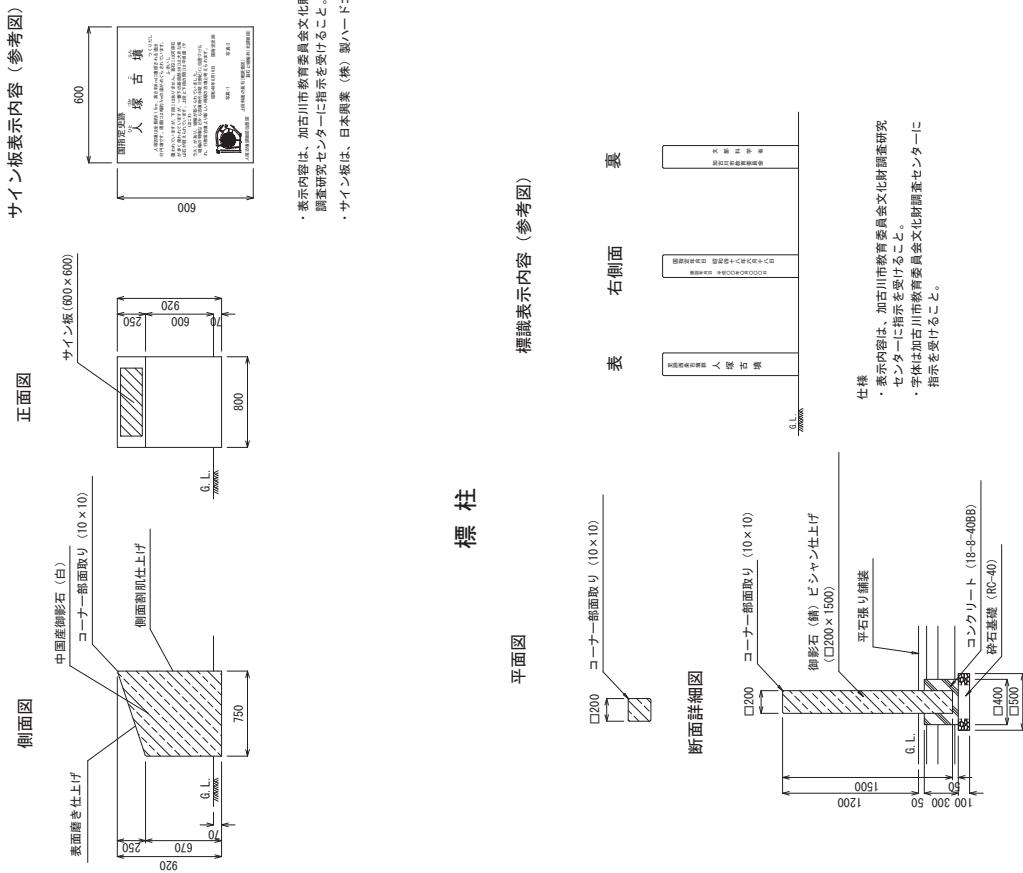
蓋ケレーチンケ

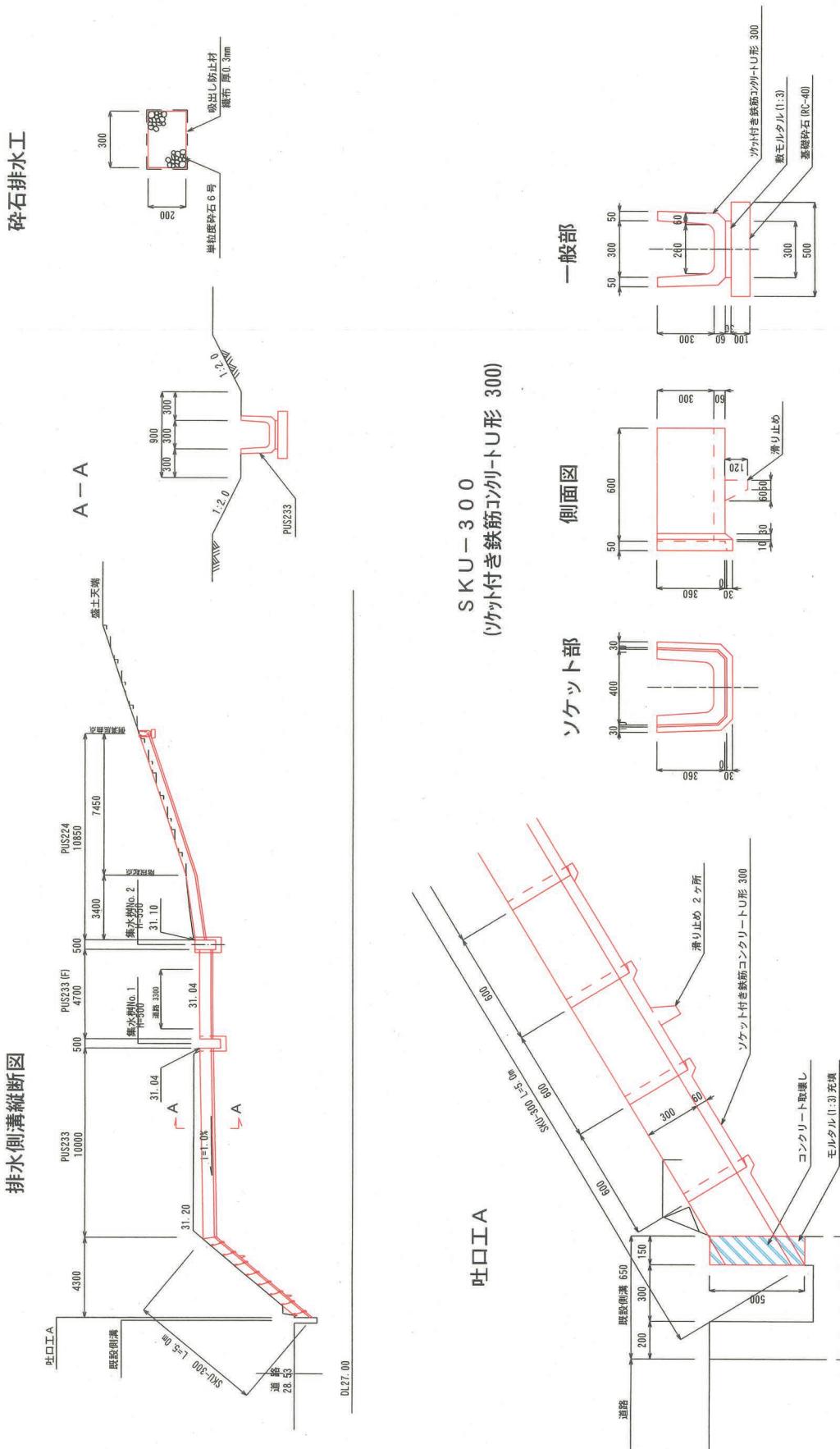


第203図 施設詳細図①

説明板

切石縁石・混合土

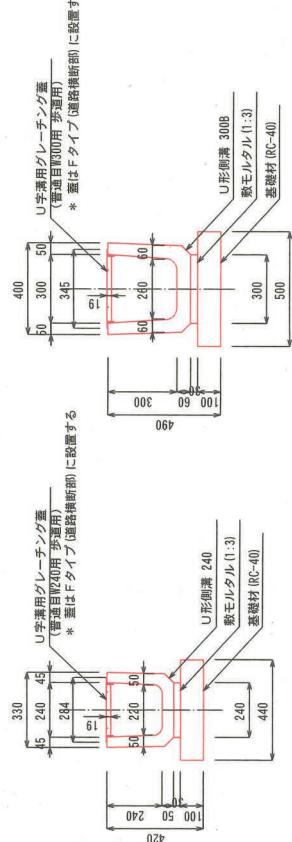




第205図 排水施設詳細図①

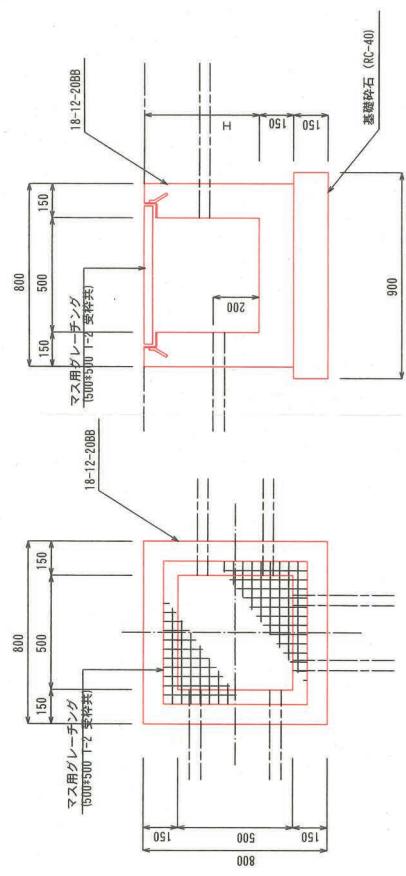
排水側溝

PUS224
PUS224 (F)



集水桿

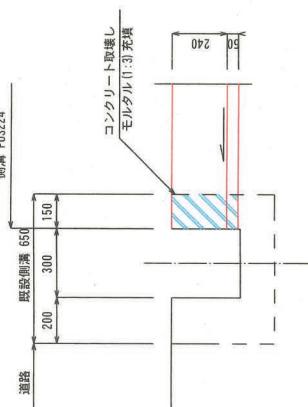
平面図
側面図



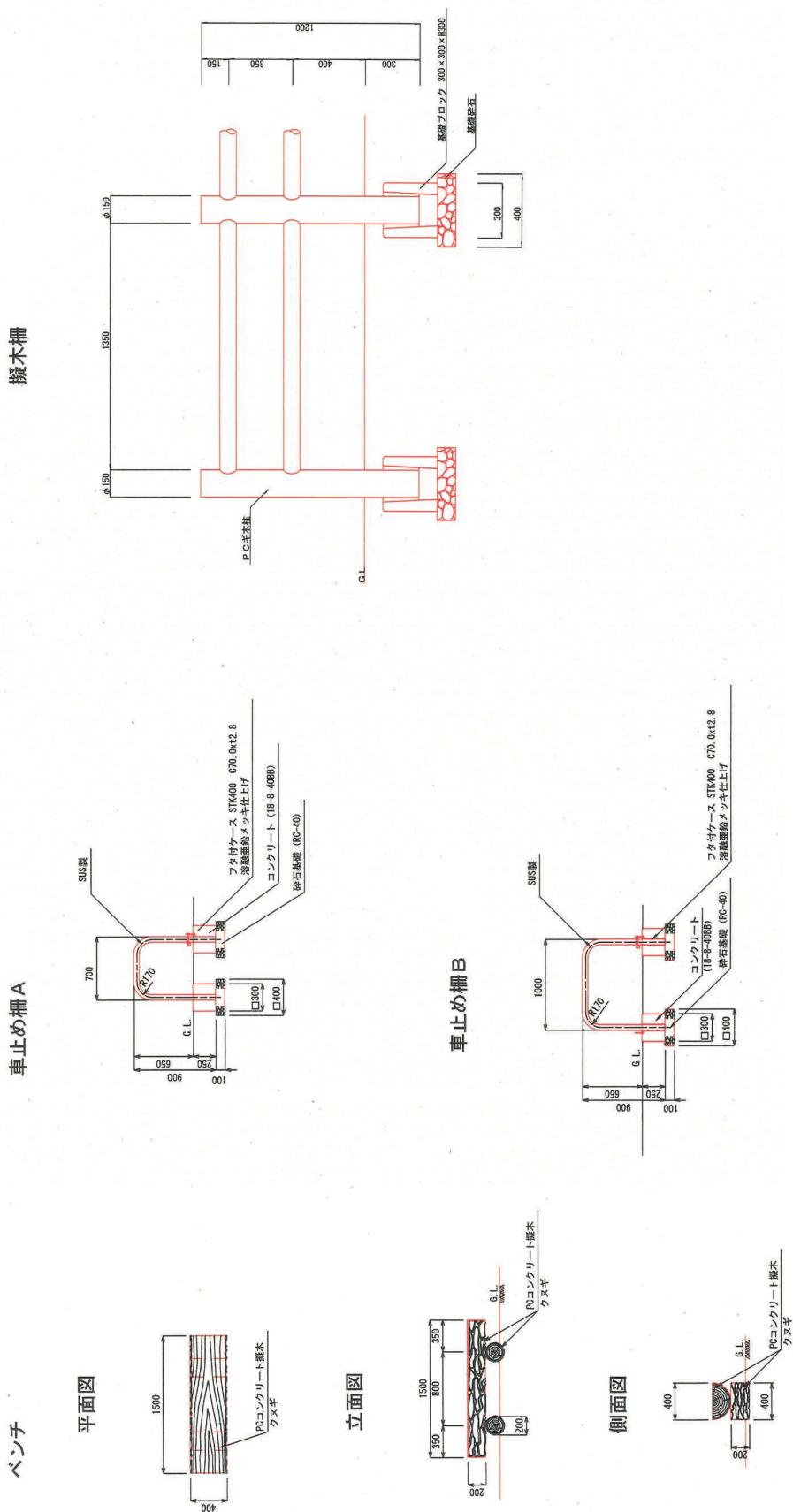
集水桿寸法表

桿番号	天端高 m	桿 高 mm	上段：水路隔別			
			1	2	3	4
1	31.04	500	U-300	—	—	—
2	31.10	550	U-300	31.04	31.04	—
3	32.84	450	U-240	U-240	31.10	—
4	31.10	450	U-240	32.84	32.84	—
5	32.20	450	U-240	31.10	—	31.10

吐口工B S=1:10



桿番号	天端高 m	桿 高 mm	上段：水路隔別			
			1	2	3	4
1	31.04	500	U-300	—	—	—
2	31.10	550	U-300	31.04	31.04	—
3	32.84	450	U-240	U-240	31.10	—
4	31.10	450	U-240	32.84	32.84	—
5	32.20	450	U-240	31.10	—	31.10



第207図 ベンチ等詳細図



第208図 人塚古墳全景



第209図 樹木伐採後の人塚古墳



第210図 人塚古墳崖面保護前



第211図 突出部の崖面（保護前）



第212図 突出部への保護盛土



第213図 墳丘裾表示石①



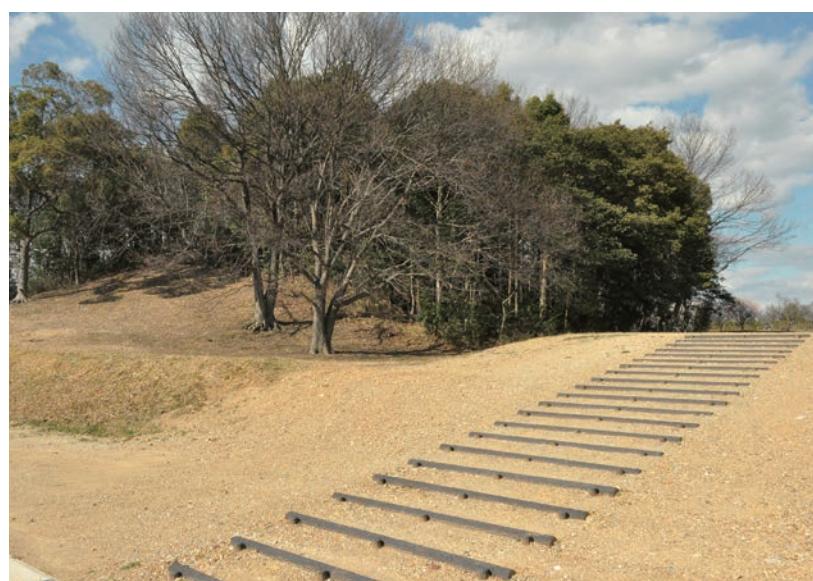
第214図 墳丘裾表示石②



第215図 周濠外側盛土前



第216図 周濠外側盛土後



第217図 周濠外側の園路への階段



第218図 瓦窯跡の表示



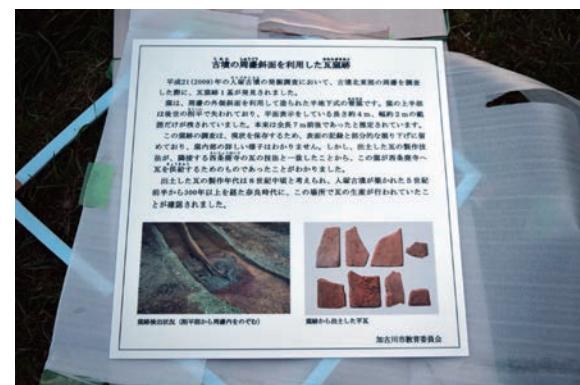
第219図 工事風景



第220図 混合土サンプル



第221図 混合土攪拌状況



第222図 説明板



第223図 南エントランス



第224図 南エントランスの案内板



第225図 西エントランス整備前



第226図 西エントランス整備後



第227図 西エントランス工事風景



第228図 西エントランス擬木階段と排水施設



第229図 ベンチ



第230図 敷地境界明示前



第231図 敷地境界明示後

第V章 まとめ

反省と課題 平成6年度から開始された本整備事業は、一時停滞する期間をはさみながら平成28年度の入塚古墳の整備工事をもってすべて完了となった。事業完了までには様々な紆余曲折があり、ここに反省と課題を整理しておきたい。

事業が長期間に及んだことについては、阪神淡路大震災の影響等により国庫補助事業として採択されるのが遅れたことが大きいが、事前の事業計画や事業費の内容について詳細に詰め切れていない部分があったため採択が先延ばしになったともいえる。スムーズな事業の進行には、十分な準備と入念な計画が必要であったと思う。

事業が長期に及んだ結果、担当者の退職など、事業を実施する体制に変化が起き、引き継ぎが不十分であったため整備の方針に混乱が生じる場面があった。過去の議事録や打ち合わせ記録を整理・保管し、史跡整備委員会での決定事項や検討事項を明確にしておく必要があったと思う。

史跡整備委員会では、事務局が提示した案について、より良い整備手法を議論しながら方針を決定していくが、委員会が1年以上開催されないことも多く、2年以上間隔が開くこともあったため、それまでの検討内容について解釈の違いや記憶違いを招きやすい状況となってしまった。

課題としては、対象となる史跡が古墳群中に点在しているため、見学ルートの確立やその周知が挙げられる。また、古墳の形状をわかりにくくする原因となる下草の管理は、今後継続的に取り組んでいかなければならない重要な課題といえる。

今後に向けて 史跡指定されている3基の古墳を巡るサイン計画については、整備基本計画の段階から検討されており、史跡整備委員会においても複数回議題として取り上げられている。議論された内容は、駐車場の拡張、道路標示の充実、案内看板等の設置などであり、見学ルートに桜を植樹して誘導するという案も出された。今回整備された史跡に見学者を少しでも多く誘導し、地域の歴史を体感してもらうため、上記の問題に取り組んでいく必要がある。

墳丘内の下草管理については、現在年2回実施している敷地内での草刈りを拡充していくよう働きかけを行っていきたい。

史跡の活用としては、現在年1回市内の小学校による現地授業を開催しており、生きた歴史学習の場として有効であることから、より多くの学校を対象に実施していく予定である。

現地の見学に加え、出土遺物との関連も本史跡を理解するうえで不可欠であることから、展示施設である加古川総合文化センター博物館とも連携しながら、博物館見学を含めたツアーを企画するなど、より多くの人々に歴史学習の機会を提供する施設として活用していきたいと考えている。

最後に、事業完了までに本事業に関わったすべての皆様に心より御礼申し上げます。

★西条古墳群史跡整備関連年表★

年 月 日	出 来 事
昭和48(1973)年 6月 18日	「西条古墳群」が国の指定史跡となる
昭和49(1974)年12月 20日	人塚古墳の土地公有化
昭和51(1976)年 4月 7日	加古川市が西条古墳群の管理団体として指定される
昭和51(1976)年11月 11日	尼塚古墳の土地公有化
昭和52(1977)年12月 6日	行者塚古墳の土地公有化
平成 6 (1994)年 7月 6日	「加古川市西条古墳群史跡整備委員会設置要綱」適用
平成 6 (1994)年11月 16日	第1回 加古川市西条古墳群史跡整備委員会 開催
平成 7 (1995)年 1月 17日	阪神淡路大震災発生
平成 7 (1995)年 3月 17日	第2回 加古川市西条古墳群史跡整備委員会 開催
平成 7 (1995)年 3月	「西条古墳群史跡整備基本計画」策定
平成 7 (1995)年 6月 22日	第3回 加古川市西条古墳群史跡整備委員会 開催
平成 7 (1995)年 7月～4月	行者塚古墳発掘調査 実施
平成 8 (1996)年 8月 1日	第4回 加古川市西条古墳群史跡整備委員会 開催
平成 9 (1997)年 3月 31日	『行者塚古墳 発掘調査概報』刊行
平成 9 (1997)年 7月 4日	第5回 加古川市西条古墳群史跡整備委員会 開催
平成 9 (1997)年 9月 21日	シンポジウム「開かれた古墳時代のタイムカプセル」開催
平成10(1998)年11月	文化庁へ要望書提出(国庫補助事業としての採択を求める)
平成10(1998)年12月 4日	第6回 加古川市西条古墳群史跡整備委員会 開催
平成12(2000)年 3月 29日	第7回 加古川市西条古墳群史跡整備委員会 開催
平成12(2000)年 5月 9日	行者塚古墳の大蔵省用地を文化庁へ所管換
平成13(2001)年 3月 25日	文化センター博物館内に特別展示室「行者塚古墳の時代」完成
平成15(2003)年 1月 22日	第8回 加古川市西条古墳群史跡整備委員会 開催
平成15(2003)年 2月～3月	人塚古墳発掘調査実施(平成14年度調査)
平成15(2003)年 4月～6月	人塚古墳地中レーダー探査 実施
平成16(2004)年 3月 10日	第9回 加古川市西条古墳群史跡整備委員会 開催
平成16(2004)年 7月 21日	第10回 加古川市西条古墳群史跡整備委員会 開催
平成17(2005)年10月 14日	第11回 加古川市西条古墳群史跡整備委員会 開催
平成18(2006)年 2月～3月	尼塚古墳発掘調査実施
平成18(2006)年 3月	「尼塚古墳実施設計」策定
平成18(2006)年 6月 27日	第12回 加古川市西条古墳群史跡整備委員会 開催
平成19(2007)年 1月～3月	尼塚古墳整備工事実施
平成19(2007)年 6月 15日	第13回 加古川市西条古墳群史跡整備委員会 開催
平成20(2008)年 3月	「行者塚古墳実施設計」策定
	人塚古墳発掘調査実施(平成19年度調査)
平成20(2008)年 7月 29日	第14回 加古川市西条古墳群史跡整備委員会 開催
平成20(2008)年 8月 23日	史跡整備工事住民説明会実施(行者塚古墳について)
平成20(2008)年11月～3月	行者塚古墳整備工事実施

年 月 日	出 来 事
平成21(2009)年2月～3月	人塚古墳発掘調査実施(平成20年度調査)
平成21(2009)年6月～3月	行者塚古墳整備工事実施
平成21(2009)年8月27日	第15回 加古川市西条古墳群史跡整備委員会 開催
平成22(2010)年9月～3月	人塚古墳発掘調査実施(平成22年度調査)
平成22(2010)年11月11日	第16回 加古川市西条古墳群史跡整備委員会 開催
平成22(2010)年11月19日	第17回 加古川市西条古墳群史跡整備委員会 開催
平成24(2012)年6月1日	第18回 加古川市西条古墳群史跡整備委員会 開催
平成24(2012)年11月15日	第19回 加古川市西条古墳群史跡整備委員会 開催
平成24(2012)年11月	「人塚古墳実施設計報告書」策定
平成25(2013)年3月31日	『尼塚古墳』発掘調査報告書刊行
平成25(2013)年8月～11月	人塚古墳整備工事実施
平成26(2014)年2月	人塚古墳発掘調査(平成25年度調査)
平成26(2014)年9月～1月	人塚古墳整備工事実施
平成27(2015)年3月30日	第20回 加古川市西条古墳群史跡整備委員会 開催
平成27(2015)年5月25日	第21回 加古川市西条古墳群史跡整備委員会 開催
平成27(2015)年8月～12月	人塚古墳整備工事実施
平成28(2016)年4月22日	第22回 加古川市西条古墳群史跡整備委員会 開催
平成28(2016)年8月～11月	人塚古墳整備工事実施
平成29(2017)年3月	『人塚古墳』発掘調査報告書刊行
	『史跡西条古墳群保存整備事業報告書』刊行(本書)

加古川市文化財調査報告 26

史跡西条古墳群保存整備事業報告書

2017年3月15日

編集・発行 加古川市教育委員会

〒675-0101 兵庫県加古川市平岡町新在家1224-7

TEL 0794-23-4088

印 刷 小野高速印刷株式会社

〒670-0933 兵庫県姫路市平野町62番地

